

**This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- **BLACK BORDERS**
- **TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- **FADED TEXT**
- **ILLEGIBLE TEXT**
- **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- **COLORED PHOTOS**
- **BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS**
- **GRAY SCALE DOCUMENTS**

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-147363 ✓

(43) 公開日 平成8年(1996)6月7日

(51) Int.Cl.⁶

G 0 6 F 17/60

13/00

識別記号

3 5 5

庁内整理番号

7368-5E

F I

G 0 6 F 15/ 21

3 3 0

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数9 O L (全 15 頁)

(21) 出願番号

特願平6-283514

(22) 出願日

平成6年(1994)11月17日

(71) 出願人 000005108

株式会社日立製作所

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

(72) 発明者 加賀美 晃

神奈川県川崎市麻生区王禅寺1099番地 株

式会社日立製作所システム開発研究所内

(72) 発明者 小野 俊之

神奈川県川崎市麻生区王禅寺1099番地 株

式会社日立製作所システム開発研究所内

(72) 発明者 長岡 晴子

神奈川県川崎市麻生区王禅寺1099番地 株

式会社日立製作所システム開発研究所内

(74) 代理人 弁理士 磯村 雅俊

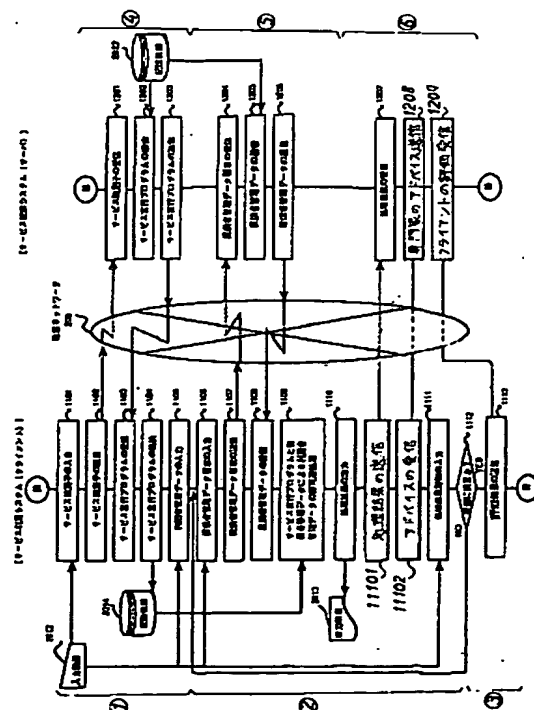
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 オンライン・インタラクティブ・サービス方法およびシステム

(57) 【要約】

【目的】 サービス利用者が自らの守秘データを要する高付加価値サービスを、守秘データをサービス提供者側に開示することなく利用できるようにする。

【構成】 サーバとクライアントを通信ネットワークで連結したシステムにおいて、クライアントは、サービス識別子を入力してサーバに送信し、サービス実行プログラムをサーバから受信して、入力装置からクライアント管理データである守秘データを入力するとともにサーバ管理データ要求をサーバに送信し、要求データをサーバから受信する。プログラムと受信データにより入力データを非可逆処理し、処理結果をサーバの専門家に送ってアドバイスを受ける。それを参考にして出力結果評価を入力し、評価が十分になるまでデータ要求入力以降のステップを繰り返し、処理結果をサーバに送信する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項 1】クライアント（サービス利用システム）

は、
 サーバ（サービス提供システム）に対してサービスを要求することにより、該サーバから該サービスに対応するプログラムを受け取り、
 クライアントの入力装置から守密性の高い情報を入力し、
 該サーバに希望するデータを要求し、
 該情報に上記プログラムと該データを動作させて非可逆処理を実施し、
 該非可逆処理の結果を該サーバに送出して専門家の意見を聞いた後、
 処理結果に対する利用者の評価が十分でないときには、
 評価が十分になるまで、繰り返して該サーバに別のデータを要求して非可逆処理を行い、
 利用者からの最終判断を該サーバに送出することを特徴とするオンライン・インタラクティブ・サービス方法。
 【請求項 2】サービスを提供するサーバと、該サービスを利用するクライアントとが通信ネットワークを介して連結されているオンライン・インタラクティブ・サービスシステムにおいて、前記クライアントは、
 入力装置からサービスの識別子を入力し、
 該識別子を前記通信ネットワークを介して前記サーバに送信し、
 該識別子に対応するサービスを実行するプログラムを該通信ネットワークを介して該サーバから受信した後、該プログラムを記憶装置に格納し、
 前記入力装置から該クライアントの利用者が管理すべきデータを入力し、
 該入力装置から該サーバが管理しているデータの送信要求を入力し、
 該データの送信要求を該通信ネットワークを介して該サーバに送信し、
 該送信要求に対応するデータを該通信ネットワークを介して該サーバから受信し、
 該プログラムと該サーバが管理しているデータを用いて、該クライアントの利用者が管理すべきデータを非可逆的に処理し、
 出力装置から非可逆的に処理した結果を出力し、
 該結果を該サーバに送信して専門家のアドバイスを受け取り、
 該専門家のアドバイスを参考にして、該入力装置から出力した前記結果に対する利用者の評価を入力し、
 入力した前記評価が十分になるまで該データの送信要求の入力以下の処理を繰り返し、
 繰り返された前記処理の結果を、該通信ネットワークを介して該サーバに送信することを特徴とするオンライン・インタラクティブ・サービス方法。

【請求項 3】請求項 2 に記載のオンライン・インタラク

2

ティブ・サービス方法において、

前記クライアントの利用者が管理すべきデータは、予め IC カードに格納されており、かつ前記データの入力装置は IC カードリーダーである、ことを特徴とするオンライン・インタラクティブ・サービス方法。

【請求項 4】請求項 1 または 2 に記載のオンライン・インタラクティブ・サービス方法において、前記クライアントは、

前記プログラムの処理終了後に前記プログラムを削除することを特徴とするオンライン・インタラクティブ・サービス方法。

【請求項 5】請求項 4 に記載のオンライン・インタラクティブ・サービス方法において、前記プログラムを削除する場合、

予め前記サーバ側で該プログラムにプログラム自身の削除機能を持たせておき、

前記クライアントが該プログラムの処理終了後に前記削除機能を起動させることを特徴とするオンライン・インタラクティブ・サービス方法。

【請求項 6】請求項 1 から 5 までのいずれかに記載のオンライン・インタラクティブ・サービス方法において、前記サーバは、

前記通信ネットワークを介して前記クライアントから送信された識別子を受信し、

前記識別子に対応するサービスを実行するプログラムを記憶装置から検索し、

該プログラムを該通信ネットワークを介して該クライアントに送信し、

該通信ネットワークを介して該クライアントから送信された前記データの送信要求を受信し、

該送信要求に対応するデータを該記憶装置から検索し、検索した前記データを該通信ネットワークを介して該クライアントに送信し、

該通信ネットワークを介して該クライアントから送信された前記処理結果を受信し、

専門家の意見を送信した後に、利用者の評価を受信することを特徴とするオンライン・インタラクティブ・サービス方法。

【請求項 7】請求項 1 から 6 までのいずれかに記載のオンライン・インタラクティブ・サービス方法において、前記サービスはアパレル商品の電子的試着サービスであることを特徴とするオンライン・インタラクティブ・サービス方法。

【請求項 8】サービスを提供するサーバと、該サービスを利用するクライアントとが通信ネットワークを介して連結されたオンライン・インタラクティブ・サービスシステムにおいて、前記クライアントは、

サーバに対する要求や利用者が管理するデータを入力する入力装置と、

処理結果や送られた画像や音声を出力する出力装置と、

3

各種データやプログラムを記憶する記憶装置と、前記各装置を制御する入出力インターフェイスと、サーバとの間を接続する通信インターフェイスと、前記記憶装置に格納したプログラムと前記通信インターフェイスを介してサーバから受信したデータを用いて、前記入力装置から入力したデータを非可逆処理する手段と、前記非可逆処理手段の処理結果に対する評価に基づいて前記入出力インターフェイスを起動する手段とを有することを特徴とするオンライン・インタラクティブ・サービスシステム。

【請求項9】請求項8に記載のオンライン・インタラクティブ・サービスシステムにおいて、前記サーバは、各種サービスのプログラムおよびデータを記憶する記憶装置と、該記憶装置を制御する入出力インターフェイスと、クライアントとの間を接続する通信インターフェイスとを備えることを特徴とするオンライン・インタラクティブ・サービスシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、B-ISDNや双方向CATV等の高速の通信ネットワークを介したオンライン・インタラクティブ・サービス方法およびそのシステムに関し、例えば、CATVショッピングにおけるアパレル商品の仮想的試着機能や教育ローン等の金融商品の仮設計機能のように、サービス利用者（クライアント）の守秘データを要する高付加価値サービスについて、サービス提供者（サーバ）側に守秘データを開示することなく利用できるようにする方法およびシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、高速の通信ネットワークを介したオンライン・インタラクティブ・サービスシステムの代表例としては、富士経済データ研究所編著「よくわかる流通」（日本実業出版社 平成4年）のp. 200に記載されたCATVの双方向性を利用したホームショッピング（CATVショッピング）がある。CATVショッピングでは、消費者は見たい商品紹介番組を選択的に呼び出し、気に入った商品があればその注文情報（番組番号と商品番号）を、CATVの回線を介して小売業者に伝達することで売買契約を成立させる。また、小島健輔他著「TVショッピングエイジ」（中央経済社 平成6年）のpp. 43～49の記述によれば、最近のCATVショッピングはありとあらゆる商品を扱っているが、それらの中でもアパレル商品は売上のシェアが大きく伸びも堅調であるため、中心的商品としての期待が寄せられている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】アパレル商品は、比較

4

的高価なものが多く、嗜好性も高い。そのため、ほとんどの消費者が、自分が実際に着て“見映え”や“着心地”を確認（試着）してから購入を決定したいと考えている。従来、CATVショッピングにより購入された商品の相当数が返品されているが、この状況もこの試着サービスが受けられないことに起因する。勿論、CATVショッピングの性質上、消費者がアパレル商品を実際（物理的）に試着することは原則的にあり得ない。しかし、情報処理の世界で見映えや着心地を確認する“仮想的試着機能”であれば、従来の技術を用いて実現可能である。すなわち、この機能をCATVショッピングの高付加価値サービスとして提供すれば、イメージやサイズの違いを主な理由とする返品率を激減できるとともに、試着できないことを理由にTVショッピングを敬遠してきた消費者の利用を喚起できる。ところが、この仮想的試着機能は、消費者のプライバシーに関わるような身体的特徴を示すデータの利用を前提とする。このような守秘性が高いデータを、サーバに渡して一括処理を依頼することは、サービス利用者にとってデータ悪用の可能性に対する心理的抵抗感も大きく、CATVショッピングの利用を妨げる一因となることが危惧される。本発明は、このような課題の認識に基づいてなされたものである。本発明の目的は、サービス利用者が自らの守秘データを要する高付加価値サービスを受ける場合に、この守秘データをサービス提供者側に開示することなく、これを利用できるようなCATVショッピング等のオンライン・インタラクティブ・サービス方法およびシステムを提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため、本発明のオンライン・インタラクティブ・サービス方法では、サービス提供システム（サーバ）とサービス利用システム（クライアント）とが、通信ネットワークで連結されたオンライン・インタラクティブ・サービスシステムにおいて、クライアントは、入力装置からサービス識別子を入力して、サーバに送信し、その識別子に対応するサービスを実行するプログラムをサーバから受信して、これを記憶装置に格納し、入力装置からクライアントの利用者が管理すべきデータ（守秘性の高いデータ）を入力し、入力装置からサーバが管理しているデータの送信要求を入力して、これをサーバに送信し、送信要求に対応するデータをサーバから受信し、プログラムとサーバが管理しているデータを用いて入力したデータを非可逆的に処理して、処理結果を出力装置から出力し、これをサーバ側の専門家に見せてアドバイスを受け、そのアドバイスを参考にして入力装置から出力結果に対する評価を入力し、評価が十分になるまでデータの送信要求の入力以降のステップを繰り返す。なお、非可逆的処理とは、処理結果のデータからは元のデータを再現できないようにする処理のことであって、元のデータ

5

を相手側に渡さなくてすむ。一方、サーバは、クライアントから送信された識別子を受信し、識別子に対応するサービスを実行するプログラムを記憶装置から検索して、クライアントに送信し、クライアントから送信されたデータの送信要求を受信し、送信要求に対応するデータを記憶装置から検索してクライアントに送信し、クライアントから送信された処理結果を専門家に見せて意見を聞き、これをクライアントに送った後、クライアントからの評価を受信する。

【0005】

【作用】本発明においては、クライアントがサーバにサービス要求を行うことにより、サーバからそのサービスのプログラムを受け取り、次にクライアントが利用者の守密性の高いデータを入力するが、これをサーバ側に渡すことなく、サーバ側から送られたプログラムを守密データおよびサーバ側のデータに対して動作させることにより、非可逆処理を行う。このようにして、アパレル商品の仮想的試着、教育ローン等の金融商品の仮設計を実現することができるとともに、守密データをサーバ側に開示しないですむため、社会問題は生じない。

【0006】

【実施例】本発明の原理は、利用者の守秘性の高いデータを必要とする高度なサービスであっても、そのサービスを実行するプログラムをサーバからクライアントへダウンロードし、利用者の完全な管理下で守秘性の高いデータを入力・処理して、その結果だけをサーバに送信することにより、守秘性の高いデータがそのまま第三者に渡って悪用されるおそれをなくす。すなわち、プログラムの処理を非可逆とすることにより、処理結果が第三者に渡ったとしても、原データ（守秘性の高いデータ）が完全に再現されないの、悪用されるおそれが全くない。図1は、本発明の第1の実施例を示すオンライン・インタラクティブ・サービス方法の処理フローチャートであり、図2は、図1の方法を適用するための装置構成を示す図である。図2において、本発明のオンライン・インタラクティブ・サービスシステムは、サービス利用システムであるクライアント201とサービス提供システムであるサーバ202が高速の通信ネットワーク203を介して連結されている。第1の実施例では、サービスの種類を特定せずに、どのサービスにも適用できる汎用サービスシステムの動作を説明する。

【0007】(1) クライアントの装置構成

クライアント201は、計算機2011に、入力装置2012、出力装置2013、記憶装置2014、通信ケーブル2015を接続したものである。入力装置2012は、キーボード20121、マウス20122、ICカードリーダー20123、TVカメラ20124を組み合わせたものである。また、出力装置2013は、ディスプレイ20131、スピーカ20132を組み合わせたものである。ディスプレイ20131は、高精細で自

6

然色表現可能なカラーディスプレイが望ましい。記憶装置2014としては、磁気ディスク、光ディスク、光磁気ディスクあるいは半導体メモリのいずれでもよい。必要なのは、プログラムの実行や大量のデータのファイルを格納するために十分な容量を具備することである。通信ケーブル2015は、光ケーブルのように、カラーの動画像でも高速に通信できるようなものがよい。結局、本発明を実現する装置構成は、一般に計算機システムと呼ばれるものであればよいことになる。具体的に

10 は、パーソナルコンピュータのような一般のユーザが家庭に所有できるものであればよく、また専用の装置で構成されていてもよい。この場合には、上述のような周辺装置の機能が充たされていることが必要である。

【0008】(2) サーバの装置構成

サーバ202は、計算機2021に、記憶装置2022、通信ケーブル2023を接続したものである。各装置が備えるべき要件は、いずれもクライアント201の装置構成で示したものと同じである。しかし、サーバ202は、同時に多数のユーザにサービスを提供するために、クライアント201に比較するとさらに高速、大容量の計算機システムであることが望ましい。具体的には、大型計算機、高機能ワークステーションが望ましく、当然のことながら専用の装置であってもよい。この場合には、クライアント側で述べたような周辺装置の機能が充たされていることが必要である。

(3) 通信ネットワークの装置構成

通信ネットワーク203の装置構成としては、B-ISDNや双方向CATVのような高速の通信ネットワークのものと同等な構成であることが望ましい。

30 【0009】(4) クライアントの処理動作

図1において、クライアントの利用者は入力装置2012から利用を希望するサービスの識別子を入力する(ステップ1101)。次に、入力した識別子を通信ネットワーク203を介して、サーバ202に送信する(ステップ1102)。次に、識別子に対応するサービスを実行するためのプログラムがサーバ202側から送られてくるので、これを受信する(ステップ1103)。受信したプログラムを、記憶装置2014に格納する(ステップ1104)。入力装置2012からクライアント201の利用者が管理すべきデータ(守秘性の高いデータ)を入力する(ステップ1105)。次に、入力装置2012からサーバ202が管理しているデータの送信要求を入力する(ステップ1106)。入力したデータの送信要求を、通信ネットワーク203を介してサーバ202に送信する(ステップ1107)。送信要求に対応するデータが通信ネットワーク203を介してサーバ202送られてくるので、これを受信する(ステップ1108)。次に、記憶装置2014に格納したプログラムと、受信したデータの両方を用いて、入力したデータを非可逆処理する(ステップ1109)。出力装置20

7

13から非可逆処理の結果を出力する(ステップ1110)。サーバ202側の専門家に対して処理結果を送信し、アドバイスを依頼する(ステップ11101)。専門家からのアドバイスを受ける(ステップ11102)。これらの処理結果とアドバイスを参考に、利用者自身の評価を入力する(ステップ1111)。入力した評価が十分でなければ(ステップ1112)、ステップ1106に戻り、再度、サーバ202に対してデータを要求する。一方、入力した評価が十分であれば(ステップ1112)、その評価の結果を通信ネットワーク203を介してサーバ202に送信する(ステップ1113)。

【0010】(5)サーバの処理動作

サーバ202は、通信ネットワーク203を介してクライアント201から送信された識別子を受信する(ステップ1201)。受信した識別子に対応するサービスを実行するプログラムを、記憶装置2022から検索する(ステップ1202)。次に、検索したプログラムを通信ネットワーク203を介してクライアント201に送信する(ステップ1203)。次に、通信ネットワーク203を介して、クライアント201から送信されたデータの送信要求を受信する(ステップ1204)。送信要求に対応するデータを、記憶装置2022から検索する(ステップ1205)。そして、検索したデータを通信ネットワーク203を介してクライアント201に送信する(ステップ1206)。次に、通信ネットワーク203を介して、クライアント201から送信された処理結果を受信する(ステップ1207)。その処理結果を専門家に見せて意見を聞き、それをクライアント201に送信する(ステップ1208)。最後に、通信ネットワーク203を介してクライアント201の評価を受信する(ステップ1209)。この結果、評価が十分でなければ、データの要求が送られてくるので、それを待つことになる(ステップ1204)。以上のように、第1の実施例では、オンライン・インタラクティブ・サービス方法により、サービス利用者が自らの守密データを要する高付加価値サービスを、守密データをサーバに開示することなく利用することが可能となる。

【0011】図1の動作ステップをグループ化することにより、処理の流れを説明する。クライアント側の動作は、の3つにグループ化される。また、サーバ側の動作は、の3つにグループ化される。クライアント側のグループは、サービス識別子の入力、サーバからのサービス実行プログラムの受信とその格納、および利用者管理データつまり守密データの入力の各動作からなるもので、サービスを受ける準備段階となる。次に、クライアント側のグループは、サーバからのデータによる繰り返し非可逆処理を行う部分であって、実際にサービスを受ける中心的処理を行うものである。最後のクライアント側のグループは、クライアントの利用

8

者自身が評価した結果をサーバ側に送信する処理、つまり最終決着処理である。また、サーバ側のグループは、クライアント側から識別子を受け、これに対応するサービス実行プログラムを送信するまでの準備段階処理である。次に、サーバ側のグループは、クライアント側からの要求により管理データを繰り返し送信する処理である。最後のサーバ側のグループは、処理結果を受信して専門家の意見を聞き、クライアントの最終的な評価を受信するまでの最終処理である。

【0012】次に、第2の実施例として、「仮想的試着サービス」機能を含むアパレル商品のCATVショッピングシステムに、本発明を適用する場合について説明する。ここに、仮想的試着サービスとは、アパレル商品を物理的に試着することなく、情報処理の世界だけで仮想的に“見映え”と“着心地”を確認する機能のことである。例えば、前者(見映え)の実現に応用可能な技術としては、加藤陽一他「アパレル産業におけるコンピュータグラフィックス」(情報処理 Vol. 29, No. 10 昭和63年10月)のp. 1163に記載された「立体モデルの利用による着装評価」がある。この技術は、まず人体の測定データを元に作ったx-y平面の断面をz方向に並べて結合したワイヤ・データに、陰面処理と濃淡表示処理を加えて、人体の立体モデルを作成する。この立体モデルの輪郭をタブレットでトレースして衣服の平面的デザインを作画し、これと既表示の立体モデルのデータとを色演算して着装状態(外観)を作り上げる。この技術を用いれば、試着希望者は、自らの立体モデルを提供するだけで、自分のシルエットをベースにした特定商品着装時の“見映え”を正確に把握することができる。なお、立体モデル上に着装者の顔を写し出すのは、商品着装の場合と技術的に同等である。

【0013】一方、後者(着心地)の実現に応用可能な技術としては、林恭弘「アパレルCADの最新技術」

(計測と制御 Vol. 27, No. 9 昭和63年9月)のp. 17に記載された「着装シミュレーション」がある。このシステムでは、1パーツを数千程度の細かい三角形の有限要素に分割し、使用する生地の力学的特性(伸縮特性、せん断特性、曲げ特性、自重など)に対する応力とひずみの関係からポテンシャル・エネルギーとして定式化する。衣服の着装状態は、このポテンシャル・エネルギーが極値を取ったときと考えられる。このような生地の変形問題を解く過程で、衣服を着用するボディとの干渉チェックもできるという。この技術を用いれば、試着希望者は、自分の体型データ(ボディ形状)を提供するだけで、気に入った衣服の“着心地”を定量的に入手することができる。以上述べたように、仮想的試着サービスは、技術的には実現の可能性がある機能である。しかし、このサービスでは、顔や体型データのよう、試着対象者にとって守秘性の高いデータの提供を必要とするので、利用に対する心理的抵抗感も大きいと

予想され、その解決は重要な課題である。

【0014】図3、図4は、それぞれ本発明の第2の実施例を示す仮想的試着サービスのオンライン・インタラクティブ・サービス方法のフローチャートであり、図5は、サービスメニュー選択画面を示す図である。システムの構成は、図2に示した第1の実施例と同じく、クライアント201とサーバ202を、CATV回線網203で連結した構成になっている。クライアント201とサーバ202の両者は、互いにデータや情報を送受信することにより、自らの処理ステップの同期を取っている。なお、以下では、特に断りのない限り、“試着”を“仮想的試着”と同義に扱うものとする。

〈クライアント：ステップ3001〉試着サービス要求の入力

予め、カラーディスプレイ20131上に、図5に示すサービスメニュー選択画面501を表示しておく。このとき、利用者が項番1の「試着サービスあり」を、マウス20122で選択することにより、クライアント201は試着サービス要求を入力する。

〈クライアント：ステップ3002〉試着サービス要求の送信

マウス20122で入力した試着サービス要求は、直ちにCATV回線網203を介して、サーバ202に送信される。

〈サーバ：ステップ4001〉試着サービス要求の受信
CATV回線網203を介して、クライアント201から送信されてきた試着サービス要求を受信する。

〈サーバ：ステップ4002〉試着サービス実行プログラムの検索

試着サービス要求に基づき、その実行プログラム4101を光ディスク2022から検索する。なお、試着サービス実行プログラム4101には、上述の情報処理技術を援用している。

【0015】図6は、ICカードに格納された人体モデルの一例を示す図である。

〈サーバ：ステップ4003〉試着サービス実行プログラムの送信

光ディスク2022から検索した試着サービス実行プログラム4101を、CATV回線網203を介して、クライアント201へ送信する。

〈クライアント：ステップ3003〉試着サービス実行プログラムの受信

CATV回線網203を介して、サーバ202から送信されてきた、試着サービス実行プログラム4101を受信する。

〈クライアント：ステップ3004〉試着サービス実行プログラムの格納

サーバ202から受信した試着サービス実行プログラム4101を、磁気ディスク2014に格納する。

〈クライアント：ステップ3005〉試着対象者の身体

的特徴データの入力

図6に、人体モデル3103の一例を示す。顔や体型等の身体的特徴データは、試着対象者（サービス利用者とは限らず）のプライバシーに関わるデータであり、その管理には慎重を期す必要がある。その点、セキュリティに優れたICカードに格納しておけば、たとえ紛失したとしても第三者が簡単に読み取ることができないので安心である。また、ICカードは携帯性にも優れているため、日常持ち歩いておけば、好きなところで試着サービスを受けることもできる。このステップでは、図6に示すように、予めICカード3102に格納しておいた試着対象者の体型601にその人自身の顔画像602を貼り付けた立体的な人体モデル3103を、ICカードリーダー20123を用いて入力する。

【0016】なお、体型データを測定する技術としては、例えば、中野広「人体の3次元計測」（計測と制御 Vol. 27, No. 9 昭和63年9月）のpp. 781~786に記載されているような直接的計測法や非接触自動計測法がある。前者は、日本人間工学会生体計測部会が定めた方法が有名であり、従来からある安価な測定法と言える。一方、後者は、ステレオ写真法やスリット光投影法に代表されるように、正確で手間の掛からない方法ではあるが、高価な測定機械を必要とするため、利用できる場所が限られるという問題がある。したがって、上述の測定機械を備えた店舗に出向いたときに、正確な体型データを（再）測定して、顔画像を貼り付けた形式でICカード3102に格納することを基本とする。しかし、その機会に恵まれない場合には、（家庭等のサービス利用場所で）前者を代用するという利用形態が考えられる。なお、前者で得た体型データ（数値）は、利用者がキーボード20121から手入力し、別途TVカメラ20124から入力した顔画像を例えば2次元的に貼り付ける。

【0017】〈クライアント：ステップ3006〉商品紹介情報要求の送信

サービス提供者（ここでは日立）が販売を予定している商品の紹介情報の要求を、CATV回線網203を介して、サーバ202に送信する。なお、本ステップを初めて実行する場合は商品紹介情報の先頭から開始するように、また、2回目以降なら前回一時停止したところから再開するように要求する。

〈サーバ：ステップ4004〉商品紹介情報要求の受信
CATV回線網203を介して、クライアント201から送信された商品紹介情報要求を受信する。

〈サーバ：ステップ4005〉商品紹介情報の検索
クライアント201から受信した商品紹介情報要求に基づき、光ディスク2022から対応する商品紹介情報を検索する。

〈サーバ：ステップ4006〉商品紹介情報の送信
光ディスク2022から検索した商品紹介情報を、CA

TV回線網203を介してクライアント201に送信する。

〈クライアント：ステップ3007〉商品紹介情報の受信

サーバ202から送信された商品紹介情報を、CATV回線網203を介して受信する。

〈クライアント：ステップ3008〉商品紹介情報の連続出力開始

サーバ202から受信した商品紹介情報は、商品をリアルかつ分かりやすく紹介できるように、多様なメディア

(音声、動画、静止画、文字)を利用して表現されている。このうち、音声はステレオスピーカ20132に、それ以外はカラーディスプレイ20131にそれぞれ出力する。図7は、商品紹介情報の出力方法を示すイメージ図である。カラーディスプレイ20131の画面701は、3つのエリア(商品画像エリア702、商品属性エリア703、コマンドエリア704)に分割されている。

【0018】〈クライアント：ステップ3009〉試着希望商品識別子の入力

利用者は、出力中の商品紹介情報の中に所望の商品を見つけた場合に、コマンドエリア704中の試着希望ボタン7041をマウス20122で選択する。クライアントは、このとき出力されている商品(アルパカ素材のセータ)を、利用者の試着希望商品の型番(A-012345)と見なす。ただし、これだけでは商品を一意に識別することができないので、別途商品属性エリア703中の色ボタン705とサイズボタン706をマウス20122で選択して、色・サイズも指定する必要がある。

〈クライアント：ステップ3010〉商品紹介情報の連続出力一時停止

試着希望ボタン7041が押されたタイミングで、商品紹介情報の連続出力を一時停止する。具体的には、商品画像エリア702中の動画をキャプチャして静止画の状態にし、音声は出力を中断する。

〈クライアント：ステップ3011〉試着希望商品識別子の送信

マウス20122で選択した、試着希望商品の識別子(型番、色、サイズ)を、CATV回線網203を介して、サーバ202に送信する。

〈サーバ：ステップ4007〉試着希望商品識別子の受信

CATV回線網203を介して、クライアント201から送信されてきた試着希望商品の識別子を受信する。

【0019】〈サーバ：ステップ4008〉試着希望商品試着用データの検索

クライアント201から受信した試着希望商品の識別子に対応する試着用データ4102を、光ディスク2022から検索する。ここに、試着用データとは、試着希望商品の立体形状やテクスチャのことである。

〈サーバ：ステップ4009〉試着希望商品試着用データの送信

光ディスク2022から検索した試着希望商品試着用データ4102を、CATV回線網203を介してクライアント201に送信する。

〈クライアント：ステップ3012〉試着希望商品試着用データの受信

サーバ202から送信された試着希望商品試着用データを、CATV回線網203を介して受信する。

10 〈クライアント：ステップ3013〉試着処理

磁気ディスク2014に格納してある試着サービス実行プログラムを起動し、試着処理を施す。具体的には、試着希望者の人体モデル3103に、試着希望商品試着用データ4102を3次元的に貼り付けることにより、

“外観イメージ(一見映え)”を作成し、要所(例：胸、首、上腕等)における“応力値(一着心地)”を計算する。なお、既に所有している商品の試着用データを、ICカード3102に格納しておけば、今回の購入予定商品とのコーディネートを確認することもできる。

20 【0020】〈クライアント：ステップ3014〉試着処理結果の出力

図8は、試着処理結果の出力イメージを示す図である。試着処理で得た3次元の外観イメージ801(既に所有している商品803とのコーディネートイメージ)と要所の応力値802を、カラーディスプレイ20131に出力する。なお、応力値は素人には分かりにくいので、5段階表現(緩い、やや緩い、適当、ややきつい、きつい)に変換して表示している。例えば、応力値3以下のときにはきついと表示し、応力値4～5のときにはややきついと表示し、応力値6～7のとき適当と表示し、応力値8～9のときにはややゆると表示し、応力値10以上のときにはゆると表示する。また、直観で捉えられるよう、5段階表現に対応して色別表示してもよい。

30 〈クライアント：ステップ30141〉試着処理結果の画像の送信

さらに、外観イメージ801の顔部分を処理した上で、サーバ202側に送信することにより、TV電話の要領で専門家の意見を仰ぐことができる。

40 〈サーバ：ステップ40091〉試着処理結果の受信
クライアントから送られてきた試着処理結果の画像を受信する。

〈サーバ：ステップ40092〉専門家の意見を聴取
クライアントから送られてきた試着処理結果の画像を専門家に見せて、意見を聞く。

【0021】〈サーバ：ステップ40093〉アドバイスの送信

専門家をクライアントと直接対話させ、対話形式で通話させることもできる。そうでないときには、意見をアドバイスとしてクライアントに送信する。

50 〈クライアント：ステップ30142〉アドバイスの受

信

サーバから送られてきたアドバイスを受信するか、直接専門家と通話することにより、意見を聞く。

〈クライアント：ステップ 3 0 1 5〉試着処理結果評価の入力

アドバイスを参考にして上述の処理結果に対して満足ならば、OK ボタン 8 0 4 をマウス 2 0 1 2 2 で選択入力して、試着商品の購入意思を表明する。このとき、支払に必要なクレジットの ID 8 0 4 1 を、キーボード 2 0 1 2 1 から入力する。一方、不満なら NG ボタン 8 0 5 を、マウス 2 0 1 2 2 で選択入力する。

〈クライアント：ステップ 3 0 1 6〉評価による分岐判定

ステップ 3 0 1 5 で、OK が入力された場合は〈クライアント：ステップ 3 0 1 7〉へ、NG が入力された場合は〈クライアント：ステップ 3 0 0 8〉へ制御を移す。

〈クライアント：ステップ 3 0 1 7〉試着商品購入意思の送信

入力した試着商品購入意思（クレジットの ID と暗証番号含む）を、CATV 回線網 2 0 3 を介してサーバ 2 0 2 に送信する。

〈サーバ：ステップ 4 0 1 0〉試着商品購入意思の受信
CATV 回線網 2 0 3 を介して、クライアント 2 0 1 から送信された試着商品の購入意思を受信する。

【0 0 2 2】〈サーバ：ステップ 4 0 1 1〉販売処理
クライアント 2 0 1 から送信された試着商品の購入意思に基づき、所定の販売処理（クレジット与信チェック等）を行う。

〈サーバ：ステップ 4 0 1 2〉販売処理結果の送信
クレジット与信チェックで問題がなければ「手続き完了」を示す通知を、一方、問題があれば「販売拒否」を示す通知を、それぞれ CATV 回線網 2 0 3 を介して、クライアント 2 0 1 に送信する。

〈クライアント：ステップ 3 0 1 8〉販売処理結果の受信

CATV 回線網 2 0 3 を介して、サーバ 2 0 2 から送信された販売処理結果を受信する。

〈クライアント：ステップ 3 0 1 9〉試着サービス実行プログラムの削除

販売処理結果の受信を待って、今や不要となった試着サービス実行プログラムを、磁気ディスク 2 0 1 4 から削除する。なお、試着サービス実行プログラム自体に、自分自身の削除機能を含ませておき、不要になったことが判明（ここでは販売処理結果を受信）した時点で、この削除機能を起動すれば、ユーザの手間をかけず、かつユーザの他目的への不正使用を許さないように、本ステップを自動実行できるという利点がある。

【0 0 2 3】以上、第 2 の実施例によれば、「試着サービスが受けられない」または「受けたくない」ことを理由に、アパレル商品の CATV ショッピングを敬遠して

きた消費者の利用を喚起することができるので、CATV ショッピング事業拡大に大きく貢献できる。以上、アパレル商品の CATV ショッピングシステムに本発明を適用した場合を一例として示したが、本発明はこれに限るものではない。例えば、教育ローン等の金融商品のオンラインショッピングシステムに本発明を適用してもよい。一般に、教育ローンの設計には、家族構成、年収、他金融機関からの借入状況といった守秘性の高いデータを必要とする。そのために借入を決心し、守秘データ提供も辞さない覚悟ができている顧客ならばよいが、試しに複数の金融機関に設計を依頼（いわばウィンドウショッピング）し、その結果を比較考察してから借入先を決めようと考えている顧客からは、オンラインショッピングの利用を敬遠されかねないという問題がある。本発明の適用により、上記問題を解決することができる。

【0 0 2 4】図 9 および図 1 0 は、それぞれオンライン・インタラクティブ・サービスシステムを構成するクライアント、およびサーバのシステム構成図である。図 2 に示した装置構成図上で、本発明によるオンライン・インタラクティブ・サービスシステムを各種サービスに適用する方法を説明する。なお、図 9、図 1 0 では、図 1 を用いて説明した機能に対応させて説明する。クライアント 2 0 1 は、入力装置 2 0 1 2、出力装置 2 0 1 3、記憶装置 2 0 1 4 及びこれらを制御する入出力インターフェイス 9 0 1 と通信インターフェイス 9 0 2 を備えており、さらにサービス実行プログラムとサーバ側のデータによる利用者側の守密データの非可逆処理手段 9 0 3 と、処理結果評価による分岐制御手段 9 0 4 を備えている。まず、入力装置 2 0 1 2 から、利用を希望する各種サービス、例えば銀行ローン、建築設計、大学受験予備校、英会話、旅行、不動産売買、株式会社債売買等のサービス識別子を入力する。入力した識別子を、通信ネットワーク 2 0 3 を介して、サーバ 2 0 2 に送信する。識別子に対応するサービスを実行するプログラムを、通信ネットワークを介してサーバ 2 0 2 から受信する。受信したプログラムを記憶装置 2 0 1 4 に格納する。入力装置 2 0 1 2 から、クライアント 2 0 1 の利用者が管理すべきデータを入力する。入力装置 2 0 1 2 から、サーバ 2 0 2 が管理しているデータの送信要求を入力する。入力したデータの送信要求を、通信ネットワーク 2 0 3 を介してサーバ 2 0 2 に送信する。送信要求に対応するデータを、通信ネットワーク 2 0 3 を介してサーバ 2 0 2 から受信する。記憶装置 2 0 1 4 に格納したプログラムと受信したデータを用いて、非可逆処理手段 9 0 3 により入力したデータを非可逆処理する。出力装置 2 0 1 3 から、処理した結果を出力する。処理結果をサーバ 2 0 2 に送信して、専門家のアドバイスを受けた後、これを参考にして、入力装置 2 0 1 2 から出力した結果に対する評価を入力する。入力した評価が十分でなければ、再度、サーバ 2 0 2 に別のデータの送信要求を行い、入力

した評価が十分であれば、分岐制御手段 904 により処理結果評価による分岐制御を行う。最後に、処理結果を、通信ネットワーク 203 を介してサーバ 202 に送信する。

【0025】一方、サーバ 202 は、記憶装置 2022、これを制御する入出力インターフェイス 1001 と通信インターフェイス 1002 を備えている。まず、通信ネットワーク 203 を介して、クライアント 201 から送信された識別子を受信する。各種サービスのうち、受信した識別子に対応するサービスを実行するプログラムを記憶装置 2022 から検索する。検索したプログラムを、通信ネットワーク 203 を介してクライアント 201 に送信する。通信ネットワーク 203 を介して、クライアント 201 から送信されたデータの送信要求を受信する。送信要求に対応するデータを、記憶装置 2022 から検索する。検索したデータを、通信ネットワーク 203 を介して、クライアント 201 に送信する。通信ネットワーク 203 を介して、クライアント 201 から送信された処理結果を受信する。以上、本実施例によれば、図 1 を用いて説明した実施例と同様の手順でオンライン・インタラクティブ・サービスシステムにおいて、各種サービスを受けることができるとともに、サービス利用者が自らの守秘データを要する高付加価値サービスを、守秘データをサービス提供者に開示することなく利用できる。さらに、本実施例では、計算機で実現する各機能を専用の回路で実現する場合に対して示唆を与えているので、回路技術者にとって専用装置を実現するために有用である。

【0026】

【発明の効果】以上詳細に述べたように、本発明によれば、オンライン・インタラクティブ・サービスシステムにおいて、サービス利用者の守秘データを要する高付加価値サービスを、守秘データをサービス提供者側に開示することなく利用することができるので、仮想的試着は勿論のこと、教育ローン、住宅ローン、事業ローン等の金融商品の仮設計、住宅建築の仮設計、不動産の売買相談、株式公社債の売買相談等の守秘データを利用者が持つ場合のサービスを簡単に受けることができる効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の第 1 の実施例を示すオンライン・インタラクティブ・サービス方法の動作フローチャートである。

【図 2】第 1 の実施例を実施するためのオンライン・インタラクティブ・サービスシステムの全体イメージ図である。

【図 3】本発明の第 2 の実施例を示すオンライン・インタラクティブ・サービス方法の処理フローチャート（クライアント側）である。

【図 4】本発明の第 2 の実施例を示すオンライン・インタラクティブ・サービス方法の処理フローチャート（サーバ側）である。

【図 5】試着サービスメニューの選択画面を示す図である。

【図 6】IC カードに格納してある人体モデルの一例を示す図である。

【図 7】商品紹介情報の出力イメージを示す図である。

【図 8】試着処理結果の出力イメージを示す図である。

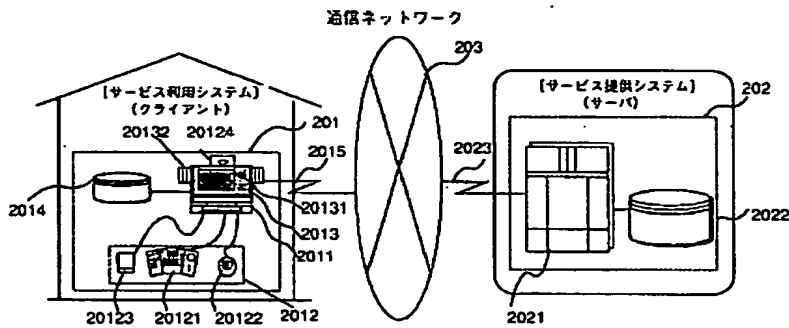
【図 9】本発明のオンライン・インタラクティブ・サービスシステムを構成するクライアントのシステム構成図である。

【図 10】オンライン・インタラクティブ・サービスシステムを構成するサーバのシステム構成図である。

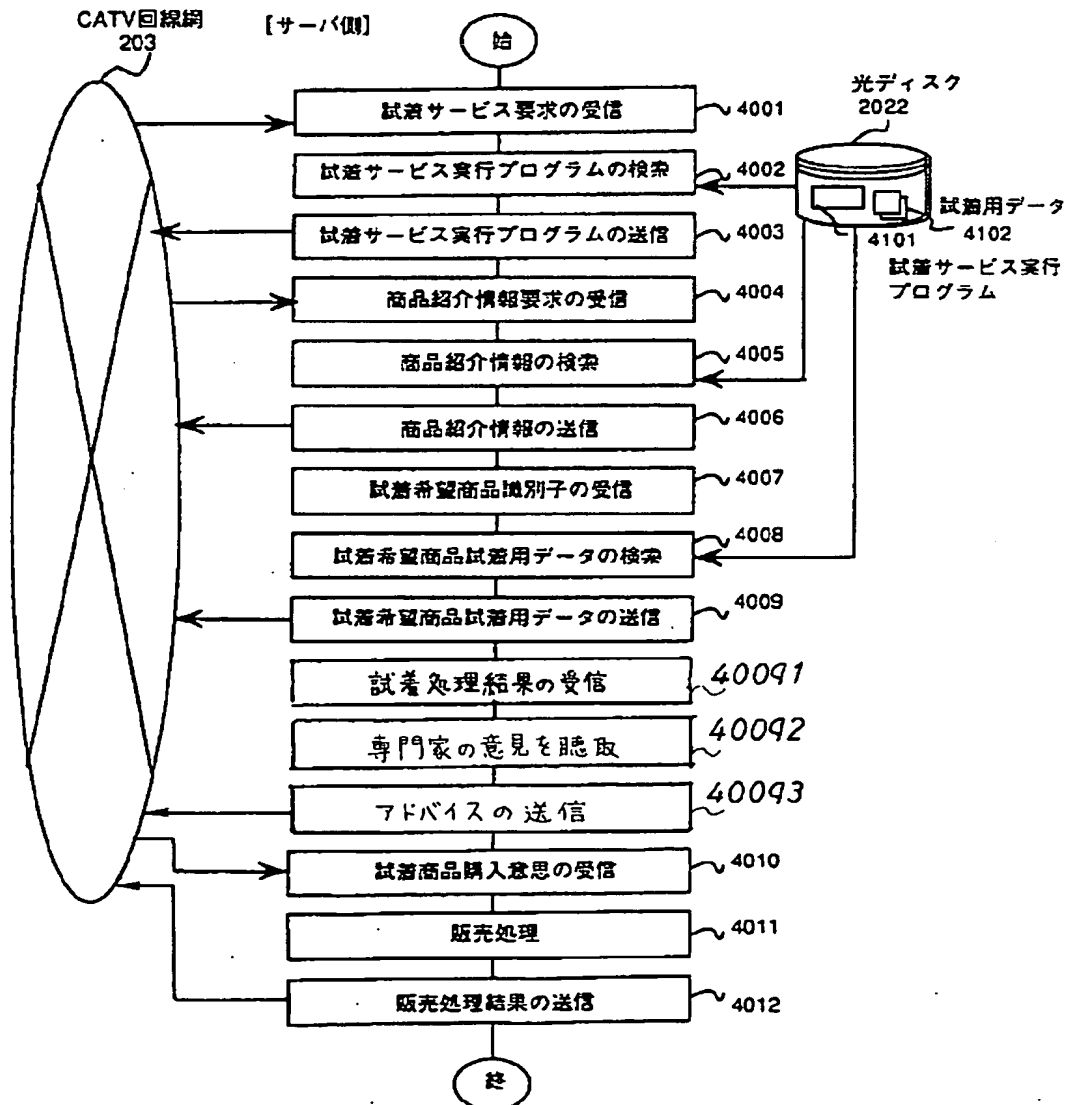
【符号の説明】

201…クライアントシステム、202…サーバシステム、203…通信ネットワーク、2011…計算機（パーソナルコンピュータ）、2012…入力装置、20121…キーボード、20122…マウス、20123…IC カードリーダ、20124…TV カメラ、2013…出力装置、20131…カラーディスプレイ、20132…ステレオスピーカ、2014…記憶装置（磁気ディスク）、2015…通信ケーブル（光ケーブル）、2021…計算機（ワークステーション）、2022…記憶装置（光ディスク）、2023…通信ケーブル（光ケーブル）、901…入出力インタフェース、902…通信インタフェース、903…非可逆処理手段、904…分岐制御手段、1001…入出力インタフェース、1002…通信インタフェース。

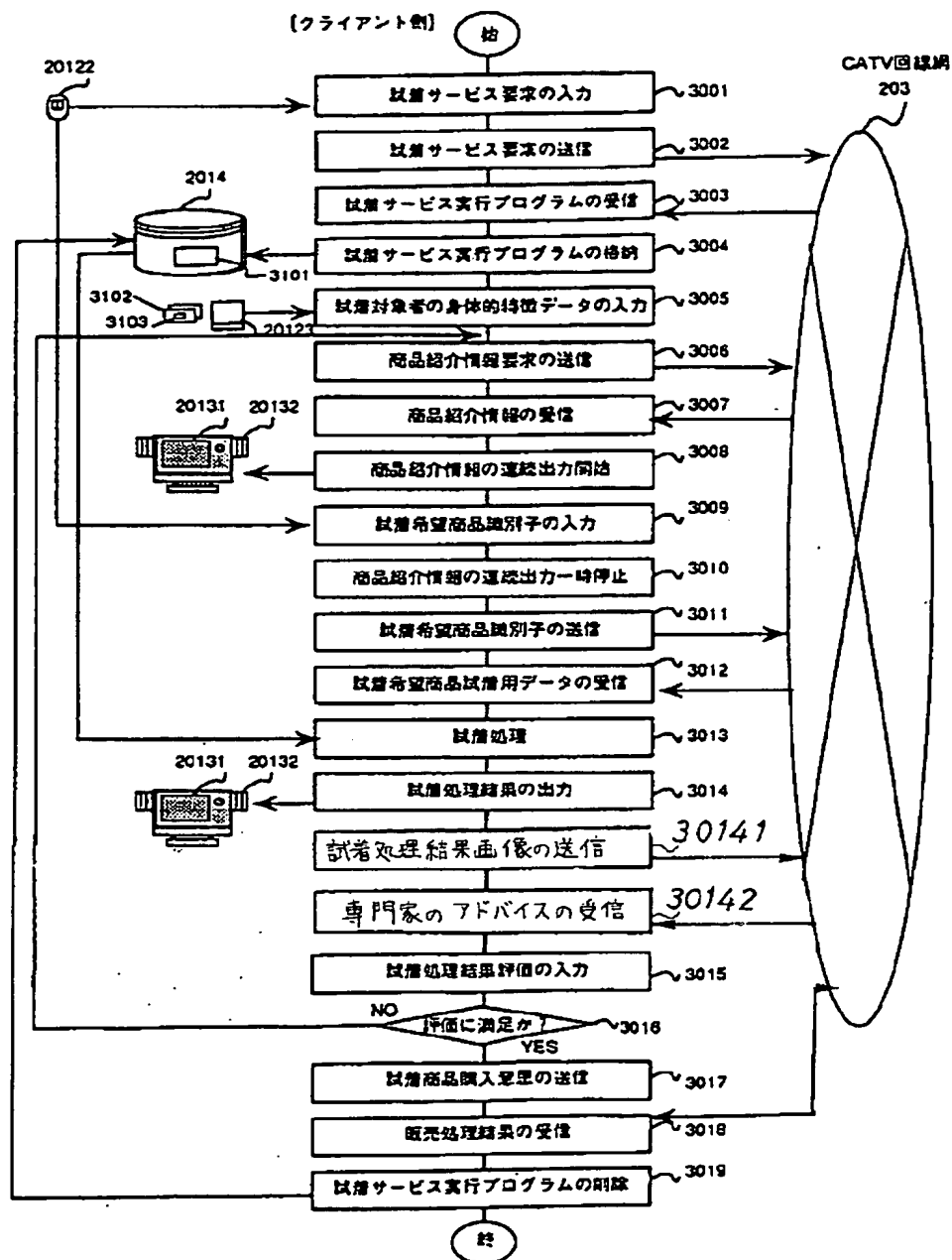
【図 2】



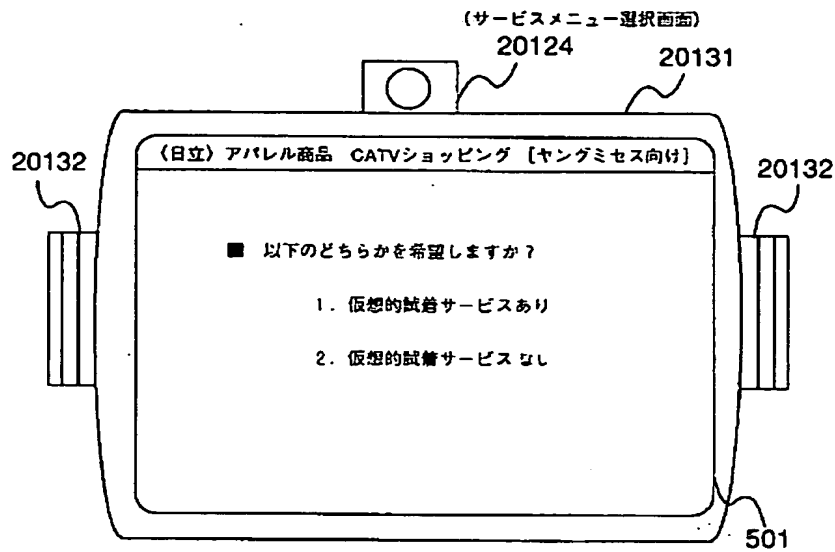
【図 4】



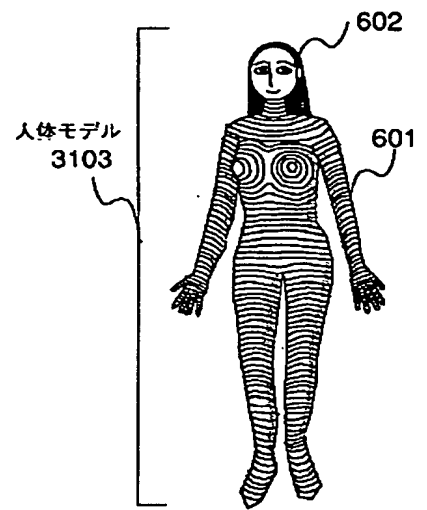
【クライアント側】



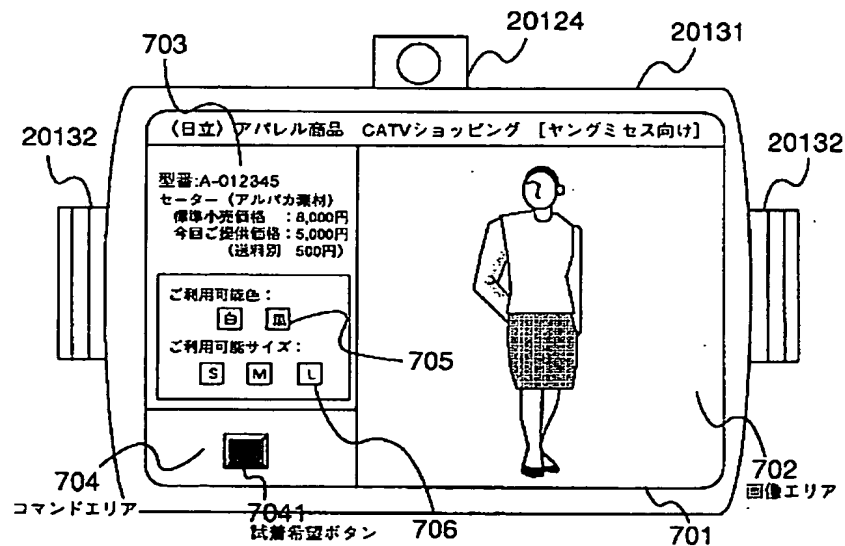
【図 5】



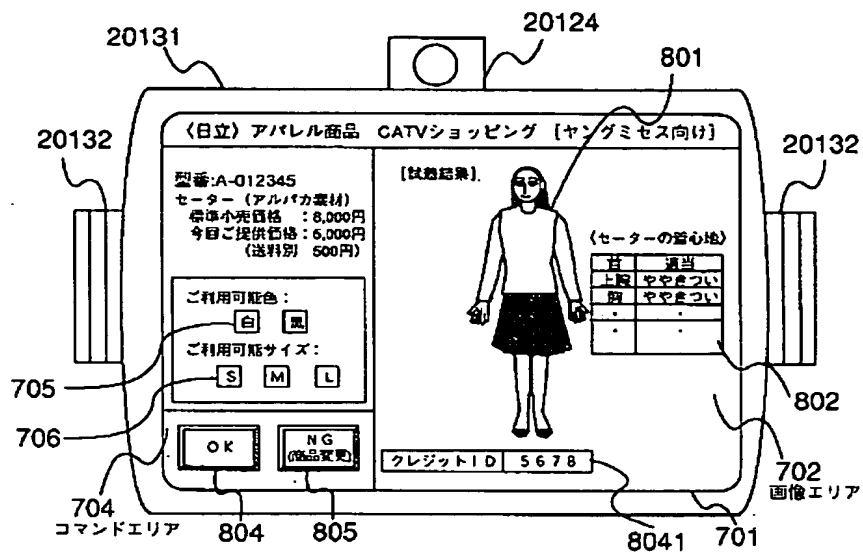
【図 6】



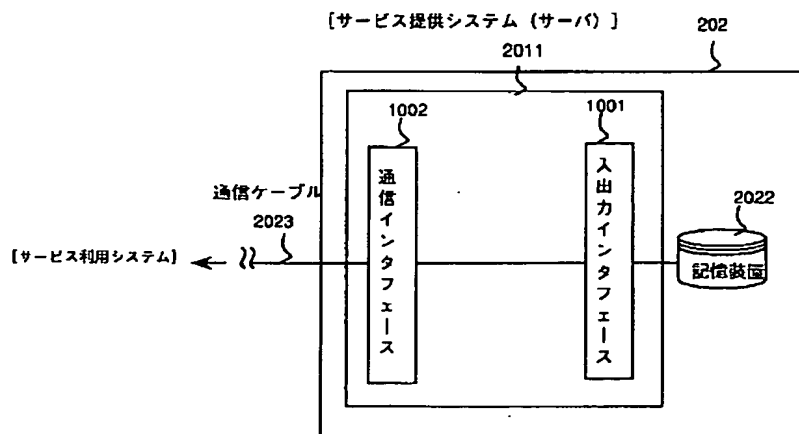
【図 7】



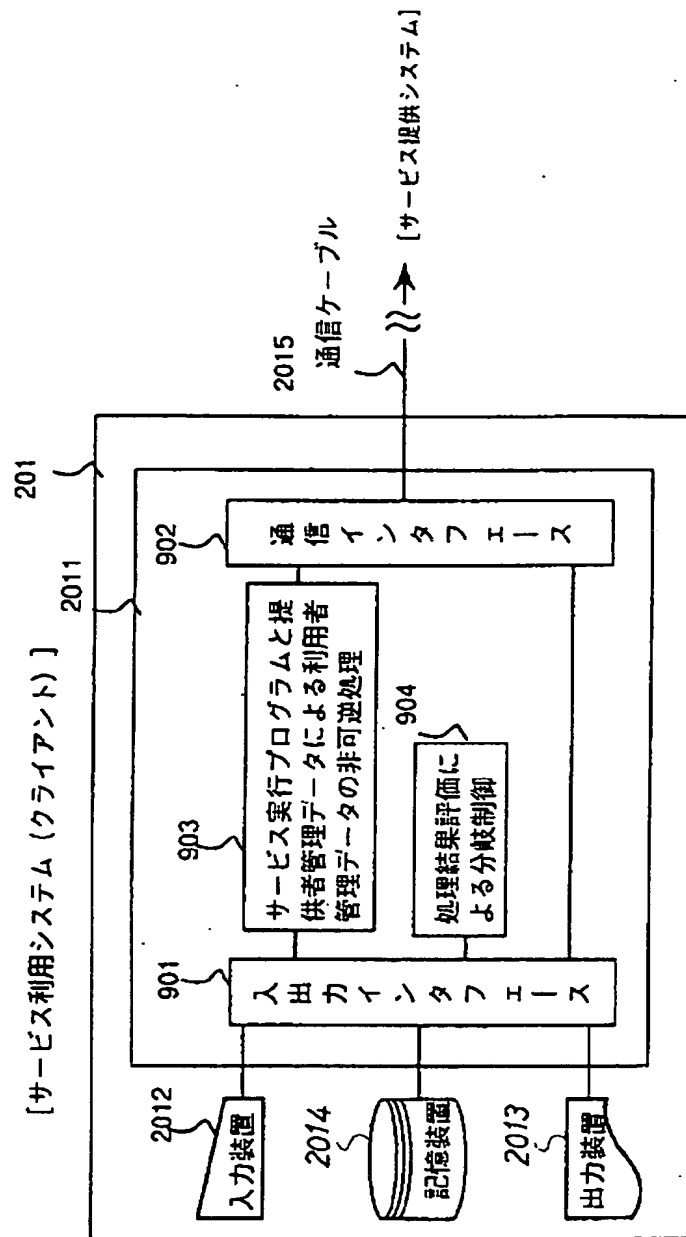
【図 8】



【図 10】



【図 9】



フロントページの続き

(72)発明者 須藤 光男

神奈川県川崎市幸区鹿島田890番地の12

株式会社日立製作所情報システム事業部内